

令和7年度  
すくわくプログラム活動報告書  
(実施対象：3歳児クラス)

モニカ茗荷谷駅前園

M  nica

テーマ

## 自然と影の関係性

---

### 設定理由

自分の影に気がつき、探索をする中で生き物や植物などの影に興味を持ち始めた。

公園先に出かけると、友だちの影や保育者の影に気づき興味を示す姿が見られたため自然と影について、より興味を深めていけるようにしたいと思ったため。

### 対象クラス

3歳児クラス・9名

### 活動のねらい

生活する中で影を発見し、影がどうしたらできるかを知る

### 問 い

「どんな影？」 「透けたかな？」 「誰の影？」

### 活動期間

令和7年6月～10月

### 活動回数

計4回

## 活動①

# 外で影を見つける

### 準備物

白い布(2) | 自然物 | アクリル積み木 | 袋

### 環境構成

①教育の森公園に行き、2グループに分かれる。 A：4人(職員一人) B：5人(職員一人)



- ②十分に間隔を空けて布を敷く。
- ③Aグループは自分の影や友だちの影、自然物を拾い白い布にのせてみる。  
Bグループはアクリル積み木の影を透かしてみる。各15分間
- ④落ち葉や木の枝などの自然物を保育者と一緒に探索しながら探す。
- ⑤AとBを交代して行う。
- ⑥子どもがどんなふうに影を発見し、発言するのか聞く。
- ⑦落ち葉や木の枝などの自然物を保育者と一緒に探索しながら探す。

## 子どもの姿

布に広げたアクリル積み木を見て「何が始まるのかな」と興味を持っていた。太陽が出ておらず、影が見つからない時間もあったが、影ができると「かげでてきた」「かげあった」「かげできた」と保育者に伝える姿が見られた。アクリル積み木を目につけ空を見たり、二種類の色を見比べたりして透かした時の見え方の違いに気が付いていた。アクリル積み木の色が太陽に透けて見えたり、自然物の影で遊ぶ子もいて、影遊びの幅が広がってきていた。影を見つける・発見することに意識が向くようになり、自分たちから「影」はどんな風にできるのか工夫して試していた。

## 振り返り

- 二枚の布に分けて少人数ずつ行ったことで集中して探究していた。
- 自然物を探す際、普段探索している場所だけではなく活動する場所を広げたことで花や大きい葉など様々な自然物に出会えた。
- 天気が曇りだったこともあり影があまり見えなかったが、布に写る薄い影や濃い影を発見できた。
- ダンゴムシやアリなどの生き物に興味をもつ子がいたため、活動に入る前にその日は何をするのか詳しく伝えたほうがよかった。



# 活動① どんない？

R7.06.30 (金)



透かして見てみて見たら  
なにが見えるかな？

ピンク色が見えるよ！



公園の落ち葉や枝を  
拾って白い布の上に  
乗せてしてみる。

けれど…

かげ、ないね、

ぼつになった

おおきいかげみつけた！



白い布を2枚用意して  
アクリル積み木  
公園の葉や枝など  
拾って影を見る。



影ある？

せんせいみて！  
かげできたよ！



布に広げたアクリル積み木を見てワクワクしていた子どもたち。太陽が出ていなくて影が見つからない時間もあつたが、影ができると「かげあつた」「かげできた」と保育者にたくさん伝えていました。

アクリル積み木の色が太陽に透けて見えたり、自然物の影で遊ぶ子もいて、影遊びの幅が広がってきています。

影を見つける・発見することに意識が向くようになり、自分たちから「影」はどんな風にできるのか工夫しています。

## 活動②

# 光・自然光で影を作る

### 問 い

「どんな影？大きい？小さい？」

### 準備物

白い布(10) | 模造紙(1)  
R1容器の水(4) | クリップライト(5)  
スタンドライト(2) | 素材 | 自然物  
アクリル積み木

### 環境構成

①オレンジ台の影コーナーに、素材や自然物などを用意し、  
2グループに分かれ影を作る。

A : 4人 (職員1人)

B : 5人 (職員1人)

#### Aグループ



#### Bグループ



②Aは職員と共に卓上のクリップライト・スタンドライトを動かしながら、白い布、模造紙で自由に影を作ってみる。

Bは職員と共に、自然光のある玄関などで自然物や素材等を用いて影を作ってみる。各15分間

③AとB交代する。

④子どもがどんなふうに影を発見し作っていくのか、見守り子どもの声に耳を傾けていく。

## 子どもの姿

室内のスポットライトの影では自然物の両サイドにライトがあり、影が二つできていることに気付いた。また自然物が大きい物だと、影が大きく映ることに気が付いていた。玄関の自然光では、はっきりと影が見えることを喜びながら、アクリル積み木を積んでみると影が家のように見えたこと、水のボトルが影で光って見えることを発見していた。玄関での影は陽ざしの入り方でよく見える時と、影が見えにくい時がある事に気付く子がいた。

## 振り返り

- キーとなる問いの保育者の声掛けにより、影の大きさの変化に気付く子もいたが、子どもに対して質問が多くなりすぎていた。もう少し静観し子どもの声を拾ってもよかった。
- 素材の上に自然物を置き、素材に映る影の濃さの違いに気づける子もいた。
- 前回から間が空いていたため、影遊びよりもアクリル積み木を重ねて遊ぶ事に夢中になる子もいた。
- 保育者の子どもの予想する姿が強く、もう少し子どものありのままの姿を受けとめていくとよかった。



## 活動② 影を作ってみる



2025.9月1日

きりん組 小川

影のコーナーでよく遊んでいる子どもたち。その中で遊んでいる物の影を発見することが増えました。そこでさまざまな影に出会えるように〈スポットライト〉と〈自然光〉で影を見比べてみました。

～スポットライトの影～

影のコーナーでスポットライトに自然物や素材を使って影をみる。



影が二つあるよ！



同じ形ができた！



～自然光の影～

玄関の自然光を使ってアクリル積み木や素材を使って影をみる。



みて！のびてるよ

室内のスポットライトの影では自然物の両サイドにライトがあり、影が二つできていることに気付いた子どもたち。また自然物が大きく影も大きく映る様子を楽しんで見ていました。

玄関の自然光では、はっきりと影が見えることを喜びながら、アクリル積み木を積んでみると影がお家のように見えたこと、水のボトルが影で光って見えることを発見していました。



(影の) お家が出来てる！

何か光ってる

### 活動③

## 身の回りの物を使ってプロジェクターに影を投影する①

### 問 い

「色々な影があるね！影つくれたね！」

### 準備物

白い布(4) | 黒い布(3) | 突っ張り棒  
プロジェクター(2) | スクリーン(1)  
パソコン | 身の回りの物(リュック、  
コップ、自分で選んだ衣服)(各1)  
身の回りの物を入れるカゴ

### 環境構成

①オレンジ台に白い布と黒い布、スクリーン、プロジェクターを設置し影コーナーを作る。3人・3人・2人の3グループに分かれる。



- ②保育者と一緒に着替え室に行き、一人ずつコップ、リュック、自分の選んだ衣服の3つをカゴの中に入れる。
- ③白い布と黒い布に自分の影を投影し、形を作ったり動きのある影を作ったり、自分のカゴの中から身の回りの物を使って自由に表現する。(各15分)
- ④テーマに沿った言葉を拾い、静観して子どもの声を聞く。
- ⑤グループを交代して行う。

## 子どもの姿

スクリーンに近付くと影が「小さくなった」遠ざかると「大きくなった」と発言し、スクリーンまでの距離によって変わる大きさに気付く子がいた。コップを持つと角度を自分で調節して取っ手が見えるように考えて持ち、リュックを背負うとリュックの形に見えるシルエットの角度を体の向きを変えながら探していた。環境に慣れずかくれんぼを始める子もいた。手を使い影を作り影から逃げる遊びをすることで影遊びに戻っていた。スクリーンの白と黒の明かりによる影の違いは、「黒はかげがないね」と発言していた。

## 振り返り

- 保育者の声かけでは、「どうしたらいいかな？」と問いかけるなど、子どもの思考を引き出す関わりを意識し、保育者が問いかけすぎず、子どものつぶやきや試行を拾いながら展開を見守っていく。
- 環境になれてなく、活動に入りづらい様子が見られた。環境に慣れて行えるよう環境設定をするべきだった。
- 次回行う際は、活動内容を全体で説明するのではなくグループごとに前回の振り返り話してから活動に入れるようにする。また、終わった後にも振り返りをする。





## 活動④

# 身の回りの物を使ってプロジェクターに影を投影する②

### 問 い

「前と影変わったかな？」

### 準備物

白い布(4) | 黒い布(3) | 突っ張り棒  
プロジェクター(2) | スクリーン(1) | パソコン  
身の回りの物(リュック、コップ、自分で選んだ衣服(各1))  
身の回りの物を入れるカゴ

### 環境構成

- ①オレンジ台に白い布と黒い布、スクリーン、プロジェクターを設置し影コーナーを作る。  
3人・3人・2人の3グループに分かれる。  
前回とは違うグループに職員がつく。



- ②保育者と一緒に着替え室に行き、一人ずつコップ、リュック、自分の選んだ衣服の3つをカゴの中に入れる。またサークルになり、前回の振り返りをする。
- ③白い布と黒い布に自分の影を投影し、形を作ったり動きのある影を作ったり、自分のカゴの中から身の回りの物を使って自由に表現する。前回の活動から子どもたちの影での遊び方に違いがあるか、どのようなものになっているか見守る。(各15分)
- ④テーマに沿った言葉を拾い、静観して子どもの声を聞く。
- ⑤振り返りをする。
- ⑥グループを交代して行う。

## 子どもの姿

「前と違うお洋服にしよう」と前回とは違った衣服を選ぶ姿があった。自分のイメージした影を実際に作ったり、リュックの影を映し出す際、スクリーンを見ながら体の向きを自分で調節して影を作ったりと考えて遊んでいた。自分の体を大きく動かしたり、手を使って形を作ったりするなど、表現の幅が広がった。影遊びが難しい子もいたが保育者の声掛けにより興味がある遊びを見つけて活動に戻った。

## 振り返り

- 活動の中で、してほしい気持ちから保育者の注意の声掛けが多くなった場面があった。遠くから声を掛けるのではなく保育者が子どもの近くいき、意図を受けとめながら関わる。
- 日頃から遊べるよう環境を整え、自然に探究を深めていけるようにする。
- 一人ひとりの発達や興味に合わせて、じっくりと試したり気づいたりできるような活動へ繋げていく。
- 活動後、子どもと一緒に振り返りを行うことで子ども自身の気づきに気がついただけでなく、保育者の学びの時間ともなっていた。



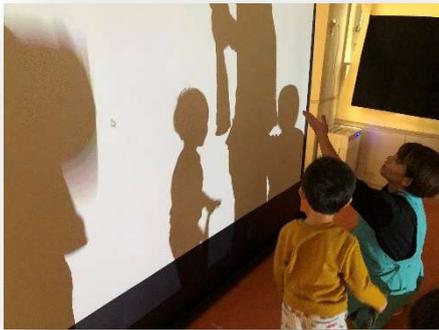
## 活動④ 身近な物の影(2)

R7.10.31(金)

きりん組 記:今



前回、身近な物を使って影遊びをするとスクリーンまでの距離で影の大きさが変化することに気が付いた子どもたち。前回選んだ洋服とは異なるものを選んで、どうなるかな? こうかな? と予想する姿がみられました。



「先生ここ来て。ここで(影)ちっちゃくなって。」

自分のイメージした影。実際に作る影。  
イメージした影の世界が作れた喜び。



「あ、帽子が見えた。」



リュックの影が 見える時。  
見えない時。  
スクリーンを見ながら体の向き  
を自分で調節して影を作る。

「色んな所を見たら見えた。」



身近な物、自分の体を使っての影遊び。

友だちの影、自分の影。  
「見て見て、大きな口だよ」  
「私も大きいよ」  
動物の影になった。



前は、自分の影や身の回りの物をスクリーンに映すことに夢中になっていた子どもたち。2回目は、コップ・リュックの形に注目した気付きや感想がたくさん出ました。

硬い素材は「ギザギザ」。柔らかい布のような素材は「丸い影」。など、影を見てわかる素材の質感に気が付いた発言もあり、影への探究を深めていました。

## 全体の振り返り

---

- クラスに入った時に影に反応する姿がよく見られるようになって影に興味を持っているのを感じた。
- 大きな影だけではなく、キーホルダーや帽子の紐などの小さな影にも着目していた。
- 外で遊んでいる時に、太陽を見て、天気によって影ができたりできなかつたりすることに気づいていて驚いた。
- プロジェクターに身の回りのものを使って影を作る活動を大人も一緒にやってみたくなった。
- 活動の回を増すごとに子どもたちからの影への気付きの発信が増えていった。
- 自然光や曇りなどの天候による影が特別な空間となっていた。
- 自分の影や自然光への興味を感じた。アクリル積み木は自分だったらどのように進めていくか考えるきっかけとなった。
- 戸外でシートを敷いて興味関心が一気に湧き上がったと思う。身近なものを使って試したり確かめたりすることが面白い。黒い布で試すことも良かった。
- 外は影に気が付きやすい為、導入に良かった。また、スクリーンで子どもたちと共有できたのが良いと思った。
- 影をリアルタイムで観察できたのが良かった。活動後に振り返りを子どもたちと行っていて良いと思った。



**株式会社モニカ**

〒105-0004  
東京都港区新橋1-5 KDX新橋駅前ビル 3F  
TEL:03-6661-2466  
FAX:03-6661-2467

**モニカ茗荷谷駅前園**

〒112-0002  
東京都文京区小石川5-3-2 エイト印刷ビル2階  
TEL:03-5615-8798  
FAX:03-5615-8799